

授 業 概 要

(こども保育科)

| | | | |
|---|---------------------------|---|---|
| 授業科目名 スポーツ実技 | | 授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習) | |
| 授業担当者 大塚 三聖 | | 実務経験 | 県立高等学校にて、保健体育の科目や部活動の指導や生徒指導などに従事した。 |
| 授業の回数 23回 | 時間数 (単位数) 45 時間 (1 単位) | 配当学年・時期 1 年・後期 | (必修 ・ 選択) |
| [授業の目的・ねらい] 運動を通してコミュニケーション能力や協調性を高める。また、自身の健康の維持、増進の方法としてのスポーツについて考え、実行できるようになる。 | | | |
| [授業全体の内容の概要] 生きるための心身の健康についての意味について理解を深める。また、身体運動を通してコミュニケーション能力や協調性を養う。 | | | |
| [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 自己の健康観を確立し、生涯スポーツとして運動に親しむ資質や能力を養う。自身の心身の健康の維持、増進を、日々の生活の中で実践できる。 | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 | | | |
| 1. オリエンテーション 2. 実技計画 (チーム編成など練習や試合などを進める計画をつくる) 3. 実技 4. 実技 5. 実技 6. 実技計画 (チーム編成など練習や試合などを進める計画をつくる) 7. 実技 8. 実技 9. 実技 10. 実技計画 (チーム編成など練習や試合などを進める計画をつくる) 11. 実技 12. 実技 | | 13. 実技 14. 創作体操計画 (編成など創作する) 15. 実技 16. 実技 17. 実技 18. 創作体操発表会 19. 鉄棒・マット 20. 実技 21. 実技 22. 実技 23. 実技 ※種目については天候等に配慮しながら行うため、種目については前後する可能性もある。 (鉄棒・マット、サッカー、ソフトボール、ドッジボール、体操など) | |
| [使用テキスト・参考文献] | | | |
| [単位認定の方法及び基準] | | ・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 授業への取組(80%) ・授業へ取り組む姿勢、出席状況、点呼時の返事、服装、移動 | |

| | |
|--|--|
| | <p>時の様子、安全面への配慮などを重視し評価する。</p> <p>2. 平常点(20%)</p> <ul style="list-style-type: none">• 他者とコミュニケーションを図り、積極的に参加する姿勢を評価。(10%)• 練習や試合などに対し積極的に参加している姿勢を評価。(10%)。 |
|--|--|

授 業 概 要

(こども保育科)

| | | | |
|--|-----------------------|--|---|
| 授業科目名 子どもの健康と安全 | | 授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習) | |
| 授業担当者 若杉 諭美 | 実務経験 | 私立幼稚園、私立保育園において保育の特性について多岐に学びながら乳幼児の保育や保護者支援等について携わった。 | |
| 授業の回数 15回 | 時間数(単位数) 30時間(1単位) | 配当学年・時期 1年・後期 | (必修 ・ 選択) |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>望ましい保育環境とは何か、子どもの健康と安全のために保育者にできることは何かについて学び、保育における保健的観点を踏まえた環境や援助について理解できる。更に子どもの健康及び、安全の管理に関わる具体的な実践力を習得できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について、関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 望ましい保育環境とは何か理解できる。 ・ 保育における健康安全管理の実際がわかる。 ・ 体調不良の子どもへの対応がわかる。 ・ 感染症の予防と対策がわかる。 ・ 保育所における保健的対応がわかる。 | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 望ましい保育環境とは 2. 子どもの健康と安全管理 3. 保育現場での衛生管理 4. 事故防止と安全対策 5. 災害への備えと危機管理 6. 保育所における保健的対応 7. 沐浴演習 8. 子どもの体調不良などへの対応① 9. 子どもの体調不良などへの対応② 10. 感染症集団発生の予防 11. 感染性胃腸炎嘔吐物の処理演習 12. 感染症の予防と対策 13. アナフィラキシーとその対応 14. 「子どもの健康と安全」学びのまとめ 15. 期末試験 | | | |
| [使用テキスト・参考文献] | | 保育者のためのわかりやすい子どもの保健(日本小児医事出版社) | |

| | |
|---------------|---|
| [単位認定の方法及び基準] | <ul style="list-style-type: none">・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。2. 平常点(15%)<ul style="list-style-type: none">・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。 |
|---------------|---|

授 業 概 要

(こども保育科)

| | | | |
|---|-----------------------|---|---|
| 授業科目名 子どもの生活と環境 I | | 授業の種類 (<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習) | |
| 授業担当者 瀧澤 延子 | 実務経験 | 私立保育園、私立幼稚園、公立保育園において、 0～5歳児の保育に従事した。 また、担任業務、主任業務、実習生指導を行った | |
| 授業の回数 15回 | 時間数(単位数) 30時間(2単位) | 配当学年・時期 1年・後期 | (<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択) |
| [授業の目的・ねらい] 保育所保育指針の領域「環境」が意図しているねらいや内容をふまえ、実践や事例をとおして 幼児にとっての身近な環境の特性を明らかにする。 学生自身が身近な環境に好奇心や探究心をもち、幼児の生活と結びついた保育の展開を身につける。 | | | |
| [授業全体の内容の概要] 日常生活のさまざまな場面で、幼児がかかわる人的環境、物的環境、自然環境について演習を 交えながら学習する。そこから幼児が身近な環境に興味・関心を持ってかかわる力を育てるに はどうしたらよいか、各自で解答を導き出す。 | | | |
| [授業終了時の達成課題(到達目標)] 学生自身が「環境とかかわる力」「豊かな感性」を養い、保育者に必要なしなやかな心を育 てる。 環境とのかかわりをとおして、幼児の内面に何が育つのか、また育つことが期待されるのか、 検討できる。 | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合) | | | |
| 1・2. 保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容の分析と考察 ※自然環境、物的環境、保育環境、行事等、保育所保育指針「環境」のねらい内容を通して、 保育者の環境設定や指導法、活動のあり方を理解する。 3. 自然に親しむ<戸外での自然発見フィールドビンゴを楽しむ> 4. 行事の由来を知る。<社会事象> 5. 保育者の環境設定や指導法について考察をする。 6. 新聞紙遊びを楽しむ。<昔話ごっこで遊ぶ>人的環境 7. ごっこ遊びについて<講義> 8. おもちゃを作って遊ぶ。 9～11. 行事で遊ぶ <勤労感謝の日にちなみお店屋さんごっこで楽しむ> 12～13. 行事で遊ぶ <クリスマスごっこを楽しむ> 14. かるたを作って遊ぶ <テーマ：食育> 15. 試験 | | | |
| [使用テキスト・参考文献] | | ・適宜プリントを配布する ・保育所保育指針 ・事例で学ぶ保育内容「環境」萌文書林 | |

| | |
|---------------|--|
| [単位認定の方法及び基準] | <ul style="list-style-type: none">・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。1. 査査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査査により算出する。2. 平常点(15%)<ul style="list-style-type: none">・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。 |
|---------------|--|

授 業 概 要

(こども保育科)

| | | | |
|---|-----------------------|--|--|
| 授業科目名 子どもの保健 | | 授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習) | |
| 授業担当者 大塚 三聖 | 実務経験 | 県立高等学校にて、保健体育の科目や部活動の指導や生徒指導などに従事した。 | |
| 授業の回数 15回 | 時間数(単位数) 30時間(2単位) | 配当学年・時期 1年・後期 | (<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択) |
| <p>[授業の目的・ねらい] 保健における意義や子どもの発育や発達について学び、子どもの健康を保持・増進するために必要な方策と、現代社会における子どもの健康に関する現状及び課題を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 子どもの心身の健康及び保険についての意義を理解する。現代社会における子どもの健康に関する現状及び課題を挙げ、個々の事例に合わせた対応ができるようになる。身体発育、運動機能及び、生理機能の発達を理解し支援が行える。子どもの心身の健康状態を理解し、不調の早期発見及び保護者との情報共有ができる。子どもの疾病とその予防法及び適切な対応ができる。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康と子どもを取り巻く環境を理解できる。 ・子どもの発育と発達がわかる。 ・子どもの健康状態の把握ができる。 ・子どもの病気の予防と適切な対応ができる。 | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康とは 2. 健康と健康指標 3. 子どもを取り巻く環境 4. 地域社会と保育所 5. 身体の発育 6. 子どもの発達 7. 生理機能の特徴 8. 子どもの健康状態のみかた 9. 体調の良くない子どもへの対応 10. 発育と発達の評価とその基準 11. 保護者との情報共有とその方法 12. 主な病気の特徴と対応、予防について 13. 保育所でよく見かける病気 14. 予防できる疾患に対する対策 15. 定期試験 | | | |
| [使用テキスト・参考文献] | | 保育者のためのわかりやすい子どもの保健 日本小児医事出版 2018年12月6日 初版発行 監修 飯島一誠 編集幹事 稲垣由子・本田順子・八木麻理子 | |

| | |
|---------------|---|
| [単位認定の方法及び基準] | <ul style="list-style-type: none">・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。1. 考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。2. 平常点(20%)<ul style="list-style-type: none">・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(10%)・授業への取り組む姿勢について関心や意欲を評価する。(10%)。 |
|---------------|---|

授 業 概 要

(こども保育科)

| | | | | |
|---|-------------------------|---|---|--|
| 授業科目名 情報Ⅱ | | 授業の種類 (<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習) | | |
| 授業担当者 桑原 勇重 | | 実務経験 | | |
| 授業の回数 15回 | 時間数 (単位数) 15時間 (1単位) | 配当学年・時期 1学年・後期 | (<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択) | |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入力操作に慣れる。 2 ワードプロセッサ「Word」、プレゼンテーションソフト「PowerPoint」の機能を理解する。 3 「Word」や「PowerPoint」が扱える。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 パソコンの基本的な操作方法を理解し、入力速度を向上させる。 2 Excel で、児童台帳等の管理表を作成し、活用を図る。 3 Excel で、管理表から分かりやすいグラフ作成を行う。 4 PowerPoint を活用して、プレゼンテーションを行う。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Excel で作表をすることができ、基本的な関数を利用することができる。 ・PowerPoint のシートが作成でき、表示機能を利用することができる。 | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合) | | | | |
| 1 前期の復習 複雑な案内文の作成 | | 9 身体計測記録表の作成 | | |
| 2 Excel の基本操作の確認 | | 10 身体計測記録表のグラフを作成 | | |
| 3 Excel の基本操作と関数の利用の確認 | | 11 PowerPoint で保育園案内を作成 | | |
| 4 クラス表の作成 | | 12 PowerPoint で保育園案内の完成 | | |
| 5 カレンダーの雛形の作成 | | 13 PowerPoint で自己紹介シートの作成 | | |
| 6 年間カレンダーの作成 | | 14 総合演習 | | |
| 7 児童台帳の作成 | | 15 期末試験 | | |
| 8 児童台帳の完成と年度更新 | | | | |
| [使用テキスト・参考文献] | | 保育者のためのパソコン講座 萌文書林 2,000 円＋税 | | |
| [単位認定の方法及び基準] | | <p>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 考查点(60%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(40%) <ul style="list-style-type: none"> ・授業への関心・意欲を評価する。(10%) ・提出課題において、到達目標に達している点を評価する。(30%) | | |

授 業 概 要

(こども保育科)

| | | | |
|---|-----------------------|--|---|
| 授業科目名 創作活動 | | 授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習) | |
| 授業担当者 若杉 諭美 | 実務経験 | 私立幼稚園、私立保育園において保育の特性について多岐に学びながら乳幼児の保育や保護者支援等について携わった。 | |
| 授業の回数 15回 | 時間数(単位数) 30時間(1単位) | 配当学年・時期 1年・後期 | (必修 ・ 選択) |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者として様々な保育教材を用いて、子どもの遊びをサポートする技能を習得する。 ・ 保育教材を自ら手作りすることによって、教材への愛着を持つと共に、教材に仕掛けや工夫を凝らし、創造力をより膨らませそれを形に起こすまでの過程を体験する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育現場で実際に即使用できる保育の小道具・教材作りを行う。 ・ エプロンシアター、マグネットシアター、ペープサート等の制作および実演を行い、保育の技術の幅を広げる機会とする。 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習や保育の現場で使用できるオリジナルの保育グッズの完成を目指す。 ・ また、ただ美しく完成させるだけでなく、作ったものを活用できる実践力や実演する上で工夫なども共に身に付ける。 | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、ペープサート性格の導入・計画 2. ペープサートの作成① 3. ペープサートの作成② 4. ペープサートの発表・提出 5. エプロンシアターの導入・計画 6. エプロンシアターの作成① 7. エプロンシアターの作成② 8. エプロンシアターの作成③ 9. エプロンシアターの発表①・提出 10. エプロンシアターの発表② 11. 手袋シアターの導入・計画 12. 手袋シアターの作成① 13. 手袋シアターの作成② 14. 手袋シアターの発表①・提出 15. 手袋シアターの発表② | | | |
| [使用テキスト・参考文献] | | ・ 適宜、参考プリントを配布 | |

| | |
|---------------|--|
| [単位認定の方法及び基準] | <ul style="list-style-type: none">・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。1. 査査点 (80%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査査により算出する。2. 平常点(20%)<ul style="list-style-type: none">・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(15%)。 |
|---------------|--|

授 業 概 要

(こども保育科)

| | | | |
|---|-----------------------|--|---|
| 授業科目名 保育原理Ⅱ | | 授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習) | |
| 授業担当者 若杉 諭美 | 実務経験 | 私立幼稚園、私立保育園において保育の特性について多岐に学びながら乳幼児の保育や保護者支援等について携わった。 | |
| 授業の回数 15回 | 時間数(単位数) 30時間(2単位) | 配当学年・時期 1年・後期 | (必修 ・ 選択) |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の実践を支える理論的な基礎を構築するため、保育の意義と目的を理解する。 ・ 保育に関する法令及び制度を理解した上で、現代で求められている保育内容や保育士の社会的役割について理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの安全管理、保育の歴史および現状と課題、様々な保育思想、子育て支援などの基本的な知識を習得する。また理論だけでなく、必要な時にはシュミレーションやディスカッションを通して、将来的に長く活用できる知識の定着を図る。 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育とは何か、また、現状において保育者に求められることは何かなどについて、自分なりに考察することができる。 ・ 歴史や制度を理解し実践を支えるための基礎知識を幅広く身に付けることができる。 | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育における健康・安全の原理 2. 環境及び衛生管理と安全管理について 3. 多様な子どもの保育を考える 4. 多様な子どもと共に育つ保育の原理 5. なぜ保育の歴史を学ぶのか/子ども主体の保育とは 6. 西欧における保育を導いた思想家 7. 日本における保育制度の移り変わり 8. 保育者に求められるもの 9. 省察的实践家としての保育者 10. 子育て支援の必要性について 11. 子育て支援の場/子育て支援の具体的展開 12. 保育の現状と課題について 13. 保育の質の維持と向上 14. まとめ(プレテスト実施) 15. 期末試験 | | | |
| [使用テキスト・参考文献] | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「新しい保育講座①保育原理」(ミネルヴァ書房) ・ 保育所保育指針解説(フレーベル館) | |

| | |
|---------------|---|
| [単位認定の方法及び基準] | <ul style="list-style-type: none">・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。2. 平常点(15%)<ul style="list-style-type: none">・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。 |
|---------------|---|